

ポケットのABC



ポケットのABC
 眉村 卓
 角川書店 (文庫)
 (10/30刊・¥260)

読ませるためのショート・ショートは当り前だけれど、その一方に、聞かせるためのショート・ショートというものがある。これは実感として分かるのである。読んで面白いものが、かならずしも聞いて面白いとは限らないし、その逆もある。どちらがよいかとなると、やはり発表の媒体に左右されるだろう。

本書は、後篇の『：XYZ』とともに、FM大阪の放送に使われたショート・ショート集である。月ごとに変わるテーマに従って、四、五作を一組にキーワード(例えば、「戦い」とか「タイムマシン」とか)を設けている。時々テーマによって、ずいぶん内容が変わっている。典型的なスタイルを持つ前半部から、後半、相当実験的なものも見られる。(むしろ、『：XYZ』に多いが)。ベストは「見えないたたかい」「テリカさん」「進路指導」「タスケテクレ」「事情があります」「アルバイトその1」などなど。レベルに大きな差はないから、あと幾つか選び出せそうだが。しかし、本当の面白さは、聞いていなくては分からないのではないか。読ませると聞かせの違いは、どうしても残るような気がする。